

## 相談支援事業所連絡会 会議録概要

名 称	相談支援事業所連絡会
日 時	2月12日(水)13:00～15:00
場 所	あいトピア3階 多目的ホール
出 席 者	あかね荘（鈴木・曾田・佐宗・木村）、たまも荘（河合・玉城）、FLAT（中村・間瀬）、さざなみ（杉本・瀬瀬）、木もれ陽（阿部・鈴木・山口・高柳・南）、ゆっか（田村）、笑い太鼓（尾崎）、社協東部（鈴木則・彦坂・黒柳・遠山・鈴木伸）、コープあいち豊橋西（鶴飼）、ビリーブ（江川・平林・鍋藤・河合）、すばる（吉田・中野・加藤）、矢車草（正本）、あゆみ学園（都築・清水）、高山学園（池原）、ナイス（鈴木・太田・小林）、奏楽（近田）、アイリス（柴田・千田・川端）、とういんくる（竹林・鈴木）、クオーレ（松原・熊谷・松尾・萩本）、らいむ（後藤・小高）、くすのき（杉浦・黒柳）、豊生ライフ（渡部）、ハートフル（山本）、よつば（安東）、みんと（鈴木）、キング（西田）、健康増進課（赤井）、市役所障害福祉課（野々村・今村・柳澤・渡會）、とよはし総合相談支援センター（鈴木陽・島・浅井） 合計…64名
議 題	1. 福祉課より連絡事項 2. 各事業所連絡会の内容について報告 3. 個別支援会議と事例検討会の実績報告 4. 事業所同士の情報交換（グループワーク） 5. その他
今回の課題	<p><b>1 障害福祉課より連絡事項</b>（障害福祉課 野々村・柳澤氏より説明） 【意見】特になし</p> <p><b>2 各事業所連絡会の内容について報告</b></p> <p>○生活介護事業所連絡会（浅井氏より説明）</p> <p>○居宅介護事業所連絡会（島氏より説明）</p> <p>○入所短期入所事業所連絡会（島氏より説明）</p> <p>○こども通所事業所連絡会（浅井氏より説明）</p> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援専門部会会長として伺いたい。各事業所連絡会の報告について、相談支援事業所連絡会も各事業所連絡会と同じ並びだと思うが、相談事業所連絡会で各事業所連絡会の報告をしていただく意味は分かる。逆に生活介護事業所連絡会で相談事業所連絡会の内容をするのか否か。並列であるなかでこういった意味合いを持たせているのか。</li> <li>・2月5日、生活支援専門部会が終わった。2月26日に全体会がある。事業所参加率が生活介護は約5割、居宅介護は約3割、入所・短期入所は約6割で、居宅介護の参加率が低い。参加率をどういうふうに見ていてこれからどうしていくのか。</li> </ul> <p>➡相談支援事業所連絡会で各事業所連絡会の報告をしたほうがいいという話があがったの</p>

は、現場で働いている皆さんの声を生で聞ける場所になるので相談員も聞いておいたほうがいい内容ではないだろうかということで共有しているというのが始まり。各事業所連絡会に報告という形ではなく、参加していただくと、相談員もワークに入ったりして活発に意見を頂ける機会になるのではないかと思います。

参加率に関しては、2回目は低かった。居宅に関しては出てくる事業所が固定化してきている。何とか参加率を上げたいと思っている。

各事業所連絡会で他の事業所にも内容報告というところは、地域全体で協議会を作っているということを見ると共有は必要だったのではないかと思います。こういった形で共有するか検討する。

・第2回入所・短期入所事業所連絡会の資料について、情報の取り扱い、活用方法などのアウンスをお願いしたい。

➡入所・短期入所事業所連絡会で短期入所の受け入れ状況、申込方法などを出欠のアンケートと同時に取っている。参加していただいた事業所のなかでも共有している。相談員にも共有したほうがいいということで今回お示ししている。

生活介護も、それぞれの生活介護事業所に得意、専門にしているところがあるが、障害の種別、特性、強度行動障害の人をどれだけ受け入れているか、強度行動障害の研修に参加している職員がいるかというところの聞き取りをしている。今後生活介護を探すというときに参考にいただければということも含めて今回載せた。

・会議に参加した事業所の人と相談員でという話だったが、コピーして配ってよいのか、どういう扱いになるのか。

➡相談員のなかで留めて情報共有してほしい。

### 3 個別支援会議と事例検討会の実施報告

(ほっとびあ 鈴木陽氏より説明)

【意見】特になし

### 4 事業所同士の情報交換（グループワーク）

(困っていること、ケースについて、委託と指定の連携、学びたいこと…など)

・社内の新人研修やOJTについて話をした。強度行動障害の人をどういう事業所が受け入れてくれるか、居宅介護事業所でどこが支援してくれるかというところで困っているケースについて話した。

・短期入所で身体の人を安心してお願いできる所がなかなかない。お願いできそうな所でも健康診断があつてハードルが高い。

・ヘルパーについては、強度行動障害だけでなく週末の移動支援や同行援護で事業所がなかなか見つからない。

・新規で相談支援の依頼が来たときにどんな感じで受けているか。基本的に本人から直接電話があれば受ける、病院や保健課から来たら検討して受ける、自分の事業所で受けられない場合に受けてもらえそうな事業所を案内して、最終的に困ったときは連絡してくださいという対応をしている、という話が出た。

・不登校の子について、委託の人ではないので一般相談で不登校の子に福祉ではないサービ

スを調べて情報を提供した。このまま福祉のサービスを使わないと1円にもならない。そういうときは委託に相談していいのか。ほっとぴあの事例検討に出していただき委託に回していただく流れがあってもいいのではないかと。

- ・不登校の小学生の話が出た。学校側でオンラインの授業を認めてくれるかどうか。ほっとぴあ島氏より、学校がやっている時間帯は無理だが、登校しなかった日でも放デイの利用できると回答を頂いた。

- ・兄弟卒で新規がかなり埋まるため、まっさらな新規を受けられない。新規の訪問をした際に下の子のいる家は受けるのをためらう。

- ・相談員の人材不足について、なかなか解消できない。

- ・南エリアの放デイ、児発がない。田原のイオンの裏に新しい放デイができ、3月にオープンする。

- ・20歳のダウン症のケース。就職していたがB型に移った。それも難しい様子。本当は生活介護レベルだが、なかなか家族と本人が納得できない。生活介護に移行していくのはどういう方法がいいか、相談員としてどういうふうに情報提供をしていくのがいいのか。家族が就職を望んでいる気持ちをどこまで寄り添いながら生活介護に移行できるか。相談員としては本人に寄り添ってあげないといけない。それも家族の意向も汲みながらということになると、生活介護を提案した時点で信頼関係は難しいのではないかと思います。そういうときにほっとぴあや主任相談専門員を使って、第三者的な立場の人から生活介護に移ったほうがいいのではないかというアドバイスしていただいたうえで、担当相談員としてはそういう方法もあるという寄り添い方で支援していくというのはどうか。

- ・ココエール、保健所等との連携がどこまでできるか。

- ・相談を受けるときにヘルパーが見つかったら受けられるという形になってしまっている。結局見つからなくて受けられないということもある。

- ・すぐに福祉サービスの利用につながらないケースについて話した。

- ・日々の業務のなかで些細なことでも困っていることはどうしているのか話し合った。

## 5 その他

(ほっとぴあ 島氏より)

今年度も相談支援事業所訪問ということで、ほっとぴあ、委託、市役所で回った。地域のケースから地域の課題を吸い上げて協議会に反映していきたい。来年度も引き続き事業所訪問をする。困っているケースなどをほっとぴあにご相談いただきたい。

個別支援会議も活用していただき、第三者を入れたほうが良い支援会議などがあればほっとぴあを活用していただきたい。

来年度第1回目の事業所訪問は今年度の実績をアンケートで協力をお願いする。

(木もれ陽 阿部氏より)

2月22日、猫の譲渡会について。

(健康増進課 赤井氏より)

- ・アンケート調査について、1事業所1回答でお願いしたい。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難病患者支援者研修会の開催について。</li> </ul> <p>(障害福祉課 野々村氏より)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害支援区分の更新時における協力医の制度の変更について、大谷小児科は今週末をもって協力医としての依頼はできない。可知記念病院についても予約が取りにくくなっているという現状があり、できれば障害に関する意見書を書いていただける主治医の確保を利用者に促していただけるようお願いしたい。</li> <li>・サービスの利用にあたり、担当者会議を確実に実施していただきたい。利用計画については担当者会議に出た事業所を含めて交付するということになっている。モニタリングについて、利用者の居宅等を訪問するということになっているので、電話等で済ませることのないようお願いしたい。</li> </ul> <p>(クオーレ松原氏より)</p> <p>連絡会会長 任期終了の挨拶。</p>
--	---